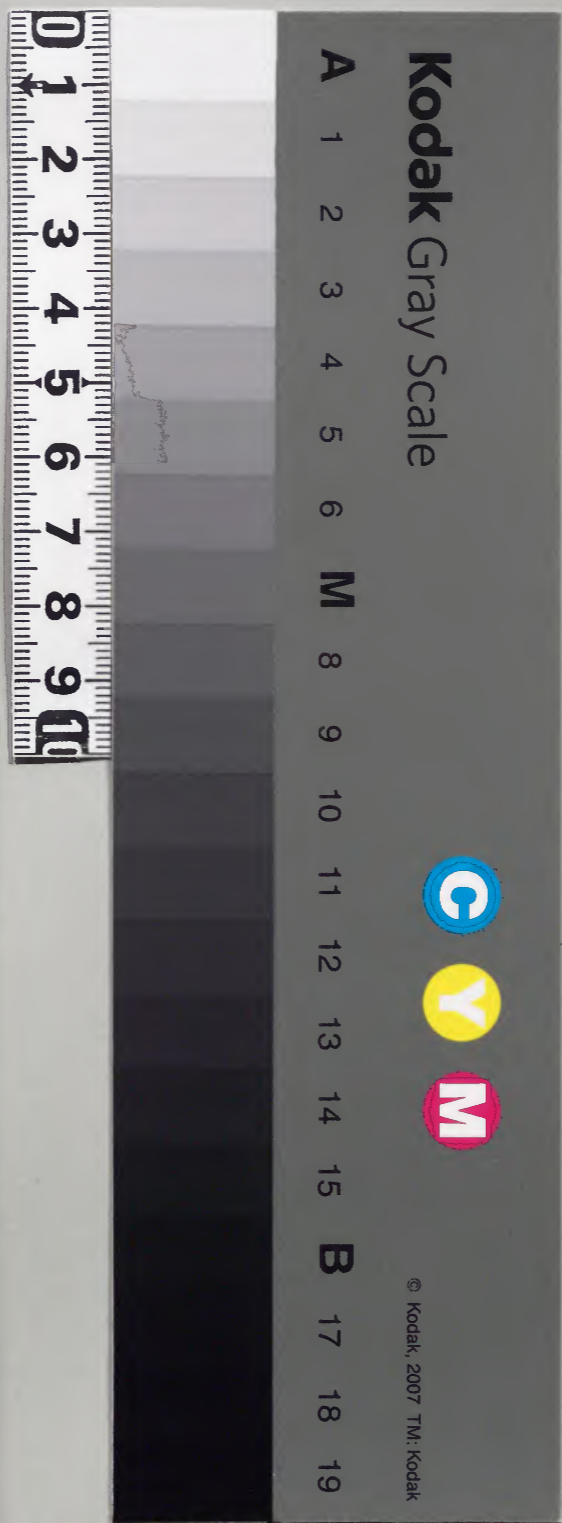


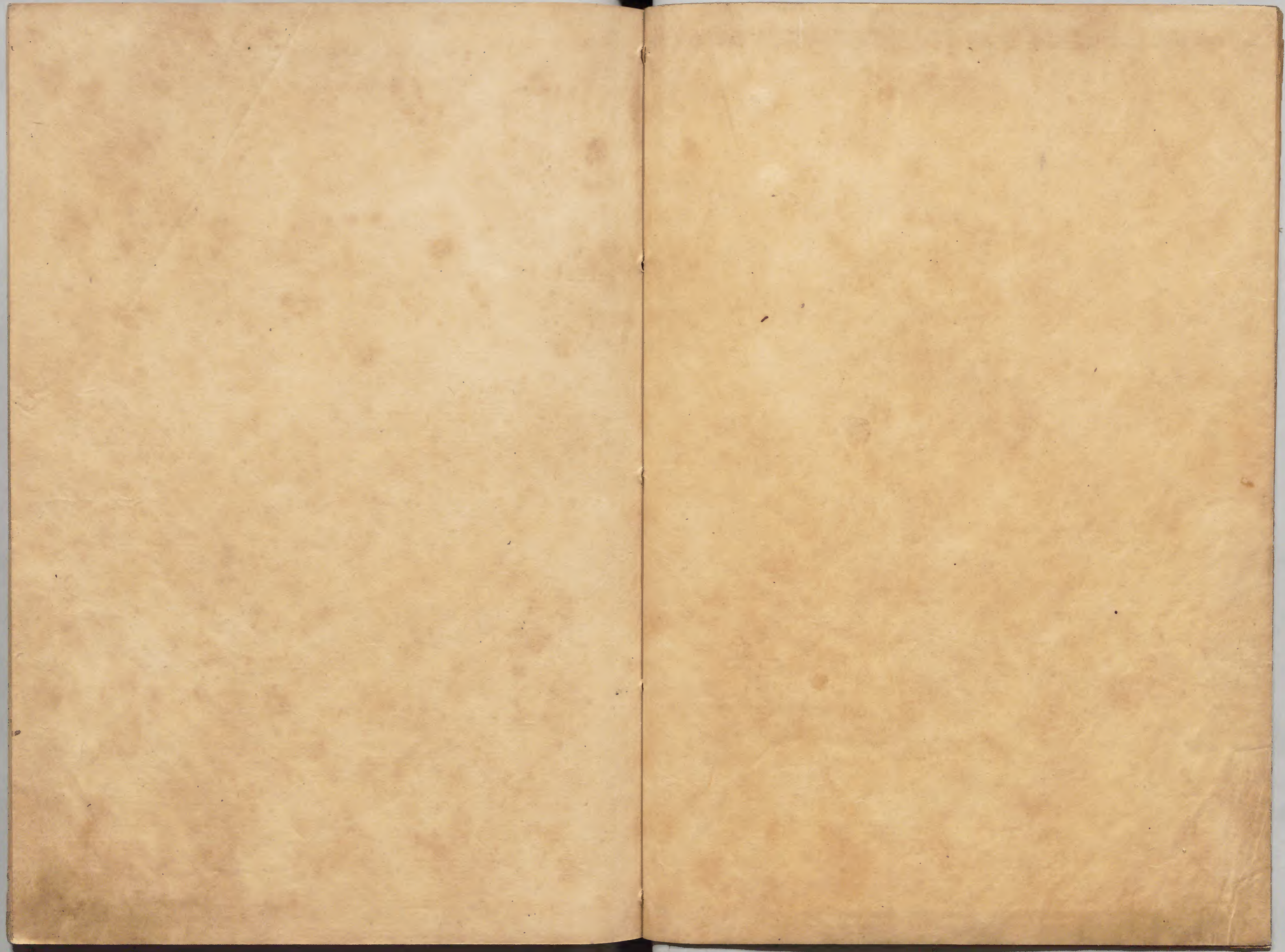
36

寛永諸家譜

清和源氏已三冊之内
頼季流

内閣文庫			
番號	和	20199	
冊數	186	(36)	
函號	特	76	1





赤井

須田

寛永諸家系圖傳

清和源氏

賴季流

赤井

別々 韋田中号寸

己三

淺草文庫

賴信

河内守

頼義よりよし

伊豫守いよのしゅ

頼清よりよし

肥後守いごのしゅ

仲家なかつか

筑前守ちくまんのしゅ

光清みつよし

盛國もろくに

村と判官代むらとはんぐわんだい

頼季よりせき

掃部助さうぶのすけ

海實うみざね

井と次郎いのつとじろう

判友代はんぐわんだい

在光ざいこう

判友代はんぐわんだい

大炊の祖おほいけのそ

丹波ふさぐさたんばふさぐさ

新重 あらしげ

大槻右衛門 おおつき

新重 あらしげ

押領使 おしりょうし

重光 あきみつ

實重 まことしげ

源大吏 げん

源海 げんみ

大炊助 判友代 おほいけ

韋田社 あいのら

丹波下流 たんば

道家 どうか

大吏 おほいけ 丹波才國 たんばさいこく 押領使 おしりょうし 道康 みちかむ

丹波才國 たんばさいこく 押領使 おしりょうし

家業 いんぎょう

三郎

忠家 ただ

葦田判友代 あしだ

同押領使 おしりょうし

家範 けいはん

同八郎

政家 せいけ

同太皇太后 たうたいこう 同押領使 おしりょうし

家高 けいたか

新右衛門 しんえもん 同押領使 おしりょうし

政宗 せいむね

三河河内系 さんかのおーやま 兼久合戦 かねひさのかっせん 命 めい

松次 まつじ

國象 こくにが

右衛門尉 いみぎ
長清太郎

家廣 いちは

右衛門尉

同押領使

家元 いもと

末代丸 すえだいまる

家輔 いそけ

次郎右衛門尉

同押領使

基家 もと

右衛門尉

同押領使

胡家 こ

同八郎

兼久かねひさ 没収ぼつしゆ しりぞ

家貞 けいけん

孫二郎 まごにじろう

秀家 ひで

持家 もち

又郎 またろう

又五郎 またごろう

久多栞 くろたのしき

範 のり

小治兵衛 こぢべゑ の公 のこう

氏家 うぢけ

黒田八郎 くろたはちろう

西方面 さいほうめん

為家 ため

赤井九郎 あかゐ

法名弘願 ほふなごん

父の家丹波守 ちちのいえたんばのりもり 玉 たま と と 為家 ためけ に譲 ゆづる れ

白 しろ の の 比 ひ づ づ り り 比 ひ ね ね あ あ り

家茂 けいげ

太郎 たろう

法名真殿 ほふなまのどの

基家 もとけ

又次郎

法名妙歌 ほりな せうか

たらら たらの 良溪合戦の時 らぎのくわせん 氏將軍に志 うぢしやうじん
かひく かひく 軍功 ぐんこう あたふ あたふ よ よ 二川 ふたがわ 交れ まじ 旗 はた
とたま とたま げ げ ね ね

清茂 きよしげ

九郎

法名樹歌 ほりな じゆか

清氏 きよぢ

文内 ぶんない 右衛門尉 うゑもんゑい

家連 けいれん

又次郎

家直 けいぢく

兵衛 べゑ 助 すけ

法名善周 ほりな ぜんしゆ

正家 ただよ

二郎にじろう

法名善願 ぜんがん

助家 すけ

左京亮 さきやうりやう

家賢 けけん

左京亮

法名善柱 ぜんちゆう

俊家 しゅん

次郎じじろう左衛門尉

正家

左京亮

貞家 さだ

勝次郎かつじじろう

何唐なにから小幡こはたて了りやうがわく

正見 ただみ

討死うちじ

盛家 もり

十郎左衛門尉

えんしうまきの 播州牧野のにたか

討死 うら

家望 いえもち

筑後守 ちくごのり

信家 のぶ

源次郎

ゆら 中られのにたかおわく討死

某 なにか

孫七郎

祐家 すけ

筑前守 ちくまきのり

孝玉 たかたま

えんしうまきの 播州牧野のにたか討死

某

源次郎

あまがこころし 天田郡七郎のにたか討死

家継下

新名清尉

家清下

五郎

弓氏より旗をたまたふ

季家下

六郎

基清下

又三郎

家國下

家宗下

河内郎

貞家下

三郎又郎

右衛門尉

法名水觀下

國家下

式部

法名道幸下

時家 とき

十郎右衛門尉

久家 ひさ

五郎右衛門尉

法名永通 えい

家長 ちか

民部 たみ

清家 きよ

國家 くに

宗家 むね

孫六 まご

孝前守 たか

小二郎

圓家 まる

治部右衛門尉 ち

家藏 いへ

五郎次郎

法名自妙 みづ

光家 ひかり

右衛門督 さゝり べんのかみ

家季 いえき

五郎次郎

忠家 ただ

左衛門督

法名妙善美教 ほつな めうぜん びく

氏家 うぢ

又次郎

法名字義 ほつな なづかひ

重家 おも

右衛門督 さゝり べんのかみ

某 なにか

又次郎

隆家 たか

又次郎

久家 スミヤ

河内守 カハチノカミ

安家 ヤス

左衛門 サエ

基家 モト

八郎 法名実宗 ハチロウ ぼうなまじゆ

家房 イヘ

与右衛門

秀家 ヒデ

某 ナニ

賢忠 ケンチュウ

与右衛門

源八 ゲンパチ

二位

神池寺 カミイケ

仁王堂坊 ニウウドウ

宗圓 ムネマル

宰相 サシ

安樂寺中坊 アノクニナカ

親家 チカ

左衛門尉

法名良悟 ぼうなまりあつ

連家 ついで

右通門尉

法名高世方 たかよ

右家 みぎ

右印左尉

法名静実 しずみ

宗俊 むねとし

安永寺通照坊 やすなが

時家 とき

某 なにか

妙玉 めうぎよ

孫又郎 まごまたろう

孫又郎

水井 みづい

某 なにか

又郎 またろう

忠家 ただとけ

右通大夫

法名良直 たかひら

運家

源七郎

光家

源左衛門

氏家

又右衛門尉

某

某

源吉郎

源七郎

某

与九郎

時家

越前守

内右氏に
丹波國と播磨

二本にわたりしくまは兵をあげし丹波
國よりしる葦田は鳥帽子山陣を
とりて内友の國教とすつまは葦
田は若き内友よりしる時家
神尾村よりたか時家力致して
みつゝ教れ首とぬらこのゆ
内友敗北す二つべ内友をとりし
ておたかかしくも時家教度勝負
と決してはかゝり内友法雲とすら

て丹波を傾す
天正九年五月八日八十歳に死
法名が休

長家

治部大輔

長正

本店在東京
天田船波法雲にわたり討死

君家

久左衛門尉

源家

源太右衛門

某

源三

久下瀧村と号す

源清

源清太夫

某年の時あり志ざしく戦功あり

弘治元年源清三平一乘に時河原草田

同多と足名持太右衛門と乳とたこ

五平の長次川かき良村に陣を

しつ時家清太右衛門やうつう二百人

教あり草田足名持と討たしつ時家清

赤をかりしめて小腹しりせりしつ時

て痛しけりしつ時三年後弘治

三年二月廿日二年三来に死

法名淨芳

惠正

惠右衛門尉

萬年の時外舅萩聖氏何家惠正兄

家清たりたり謀叛とくつたる死

惠正萩聖とくつは是よりして惠右衛門

や号す

高村合戦のやと惠正十二ヶ所の恋と

かり少家

天正六年二月九日丙午来少く死

法名常休

幸家

新八郎

あぶら少備

生國丹波

長十一年四月八日伏見より病死

法名釣月

章長

友右衛門 生國同士の

を列 演松 したわく

東照大権現とあり ちあり 釣念に

ふら海井左衛門尉忠次 属次

と夜小笠原左衛門佐 属

信列と田にあき 討死時 二十

八歳

貴成

石川弥左衛門

東馬別とありあり

善業

七郎善清 生國と聖

寛永七年

右徳院殿

右軍殿とあり ちあり

時勝

在甲卯

生國丹波

長十六年三月七日大和

病死 法名常圓

時政

生名

生國山城

寛永三年

將軍家へ

某

九月三郎

素

継子代

時盛

弥平兵衛尉

生國丹波

浪人となりて在列 淡松より

大指現をありしなりしれりわさき

大指現より下り家清書之通あり

主帳
 在境之使使者被殺越後
 祝美以拜其許之活沖之被道子
 先之在本らまき之由あるまき
 之海行名委曲面之内
 之く種

十一月二日 家康

道田平兵衛尉友

就主國之孫子使名之招越人委
 細之ねまき之柳今度之先
 一接末之孫起之城新持之也無
 以親御孫何分也
 信雄中之方一存活存しるは度
 可之抽我忠の道又け表接振眼有
 及合我池田猪入父子之人と始森
 武藏守堀久左衛門長右衛門
 之好孫也

十人余おちいげ下の志は一万餘まんよ討う討ち下りの羽
柴しば也いも通つう詔あそ多と一さ人ひとも進ま籠かご
馬うま人ひと召ま不ふ移うつ時とき自みづか根ね切きり眼まなこあらく
糸いとと落お之の志し福ふくの者もの使つか志し多と深ふか
説とのう様さまに

卯月う古こ 家康いえやす

道田みちの平へ長なが清せい尉ゑい辰ちん

進まとと徳とく述じゆつの志し方かた自みづか前まへに被か相あひ

把と平へい修しゆくく做し志し及及び沙さ法はふ新しん地ちに
事こと茲こゝに自みづか掛か以もつ其その有あるる覚さ悟ごく
糸いと跡あと一いつ致しち拙ちやく志し其その以もつ其その細こ心こゝろお合あ合あ
史し志し作さくるる様さまに

五月ご月げつ十四じゅう日にち 家康いえやす

道田みちの平へ長なが清せい尉ゑい辰ちん

右みぎの清せい書しよ回わい附ふ下した本ほん多た平へい八はち忠ちゆう勝しやう副ふ
此こゝ一いつ通つうにあり

寛永十一年八月十日病死七十六歳
法名常安

時長

太郎左衛門尉 生國同前
左衛門殿より侍へりて 後河津城の
津青より侍へり
寛永十三年八月初日死年未詳
法名常真

時次

持左衛門 生國三列
右衛門殿より侍へり
元和九年病死

時喜

持左衛門 生國武列
寛永十一年より
將軍家へ侍りて死

時重

源平争鬪尉 生國武列

祖父内直が養子よしちる家

寛永十三年

將軍あともり ちり内直を法とほぐ

時香

五年次 生國同家

寛永七年六月書

將軍あを祿しちる家

忠家

五郎 生國丹波

永禄七年忠家十歳に丹波れ國

井崎にたかく内友備前守と合戦の

ごき忠家が弓を敵に射たしむる

自方れけしきれあり

忠家より年々時父よりきこし伯父
をたまたまれ

丹波國奥三郡の領事
目常清下知し条任より自れありて全
領知五よりお邊し仕立件
永禄十三年

二月日 信長朱印

葛田お印反

まは忠家よりきこし伯父
とやげ丹波と附郡但馬郡赤松より
たしづけは丹波のうらと郡と波多
聖と総々これと領事と波多聖の
男れ家たかゆへと赤井波多野れ
家合體しらしは波多智日向る光秀
織田七名藩尉信隆は長れ下知しけり
丹波よりきこし伯父よりきこし伯父

支那の長成りてこれとやがらば國を
まわつては光秀信隆二つび丹波
乱りて大に勝利をゆつらつたとき
政多聖殿にす翌年忠家は丹波
をまわつてを列しおもしろき二侯
居す

文禄元年高麗陣の時秀吉は
出陣して米代子石をたまふ
秀吉薨しては伏見の白鴉を

大指現とる一を記

文長五年園原津陣れ時

大指現とる一を記

石加増とたまはけ

同十年四月廿九日伏見にて薨れ五十七歳

法名宗圓

忠泰

一名尹勝 其印也 其後也 其庫也

秀長乃ゆゑ忠泰十四歳少く相馬
信濃守の御伊豫守ゆゑらつてさあて

大権現へ清目見し十七歳より

つひに

慶長七年知り子石津領寸

同八年

大権現將軍宣下の時迄も部下に叙し

忠家死すの復られを詔の叙り子石

津領寸

とたまはりて忠泰が領よりおれ子石を
身公雄より下され
大坂あなれ津陣に
大権現の侍寸

元和三年

右徳院殿天目守御再興れ所行相と
忠泰とふ善侍なりと 佐竹より
復津使番とたり

云雄えんを

右馬侍

父忠家ちゅうけのほこを賜ふ
二千石
見
尹勝いんしょうより賜ふ
石いし

大権現おほごんげんの御命みことを領す

十歳じゅうさいの時

大権現おほごんげんとありし
十四歳じゅうしさいより後のちに
おほごんげんを領す

長十九年ながじゅうくわねん大坂陣おさかじんの時ときに

は

右馬院うまゐん殿のり

將軍しやうぐんより賜ふ

公久きんきう

右馬うまの助すけ

美濃みの川がわ勝かつ太郎たろう長房ながぼう重氏しげうぢが子こやわらわ外ぐわい男おとこ云
雄子おとこがありしやわらわ赤井あかゐ氏うぢとほゞ十五

歳の時

將軍家とありて

寛永十八年より御書院書とあり

忠秋

五郎仙

又恒宅とあり

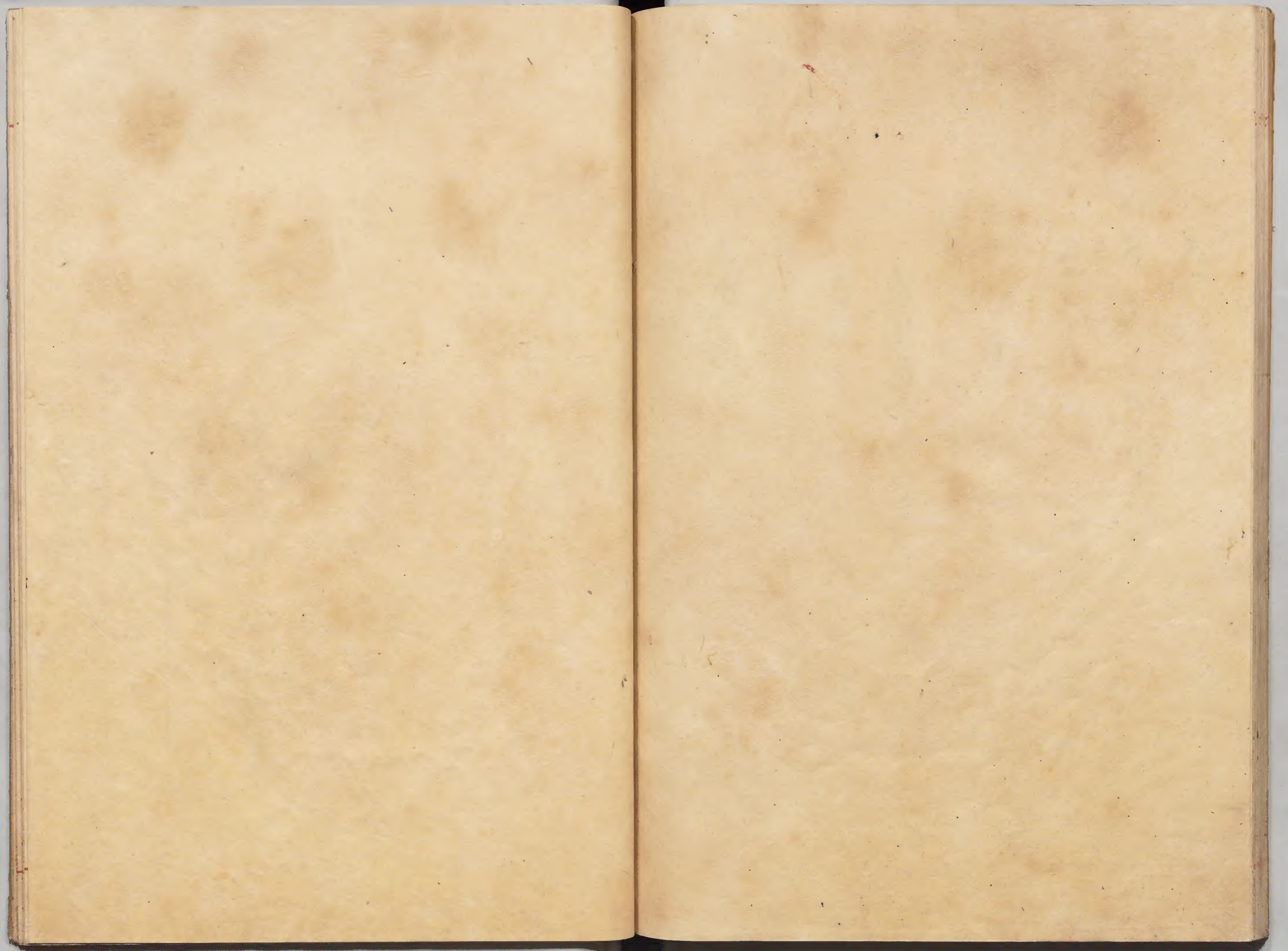
とありて後府とあり

大指現とありて

台徳院殿とあり

とあり

家紋存金目住書



須田

正光

大隅守

生國信列

信列次郎の城をとりて武田信虎

とす

法名正光

盛友

肥前守

生國同家

信虎に侍る

盛義

名部 生國甲列
信玄より侍る

盛永

右近 生國同家
勝頼より侍る

天正十年

東照大権現とありたくまら

寛永元年九月廿四日死す時より八十
二歳

盛清

平右衛門 生國同家

天正十年甲列没落せり

大権現とありたくまら

同十八年小田原陣に侍

長五年圓原陣に侍

台座院殿に侍

代官をたいくわんしりあたり

將軍たいしあつりし

寛永十五年九月七日死

七十八歳

廣正ひろまさ

次郎太史 生國同前

大掾だいせんをおり

天正十八年小田原陣に侍

文禄元年名護屋陣に侍

長九年圓原陣に侍

同十九年元和元年大坂陣に侍

侍陣じけんに侍

侍

台座院殿に侍

正時

儀左衛門 生國武列

右衛門殿

將軍殿より一信くだり申すに二十歳

みく死

祇寛

次郎左衛門 生國城列

寛永十年四月十五日

將軍家とありしもの

同十二年十二月廿八日父が遺書を

つと大津毒どしにむ

廣義

儀左衛門 生國同列

美ハ本目持十郎子あり

將軍家とありしもの 養父正時

美ハ本目持十郎子あり

本國傳りし松平隼人正之別
加茂郡下屋敷の末子なり

子持ら東の尉浪人といふなり伊豆にあり

しきも吉川條氏と退治し時持余の

徳勢の業内者なりなりて箱根にあり

中に入つてり首級にあり

大指現るしやいふ事にて松平とつたなり

本國と号する繁陣圓尔陣大坂

多陣つたじんしづれも伊豆いずとて子持する

大指現

台座院殿たいざえんつたなりとつり大坂多陣

伊豆

寛永六年二月死二十九年

盛近

長三郎

文禄四年

台座院殿とありとあり

長十八年二月死二年二月

盛正

久右衛門 生國武列

元和四年

台座院殿とありとあり

同九年

右軍あしけいなどくまらり大津妻を

清心

盛森

傳右衛門 生國同あり

元和四年

台座院殿とありとあり

右軍あしけいなどくまらり

盛帝

平右衛門 生國同あり

寛永十六年

將軍家と評ししもの

盛当

与左衛門 生國同家

右衛門殿

將軍家と評ししもの

家紋と評ししもの



